

ゲイルスピード・タイプNの新作17インチホイールを手にする、アクティブのホイール事業部主任・深瀬直樹さん。本文中にある、「スポーク間をつなぐリブ」と「3D加工で肩を丸く落としたスポークとリブのつながり」を説明中。深瀬さんの前職は4輪車用市販マグホイール・メーカーでの製品開発で、「ワイドで深リム」という表現も、その4輪用ホイールでは主に旧車ファンの間で交わされているそう



自社切削ならではの こだわりの追求

クラシカルに見えて 性能は最新式の妙

今となつては数少ない18インチサイズのアフターマーケットホイールの中でも、アルミ鍛造による高機能と価格のバランスを武器に、Z

1000MKIIとGSX1100S向けに販売されるのが、アクティブの「ゲイルスピード・タイプN」。今夏、そのサイズラインナップに新たに17インチが加わるといふ。80年代車にこそ似合うクラシカルなタイプNの6本スポークデザインを、

ZEPHYR & CUSTOM PARTS

6本スポークのタイプNに17インチモデル登場

ワイドで深リムの古くて新しい感覚

オーセンティックな6本スポーク、18インチサイズなどで旧車ファンに人気の鍛造アルミホイール、アクティブゲイルスピード・タイプNにゼファーにも合う17インチモデルが加わった。その開発意図を追う。

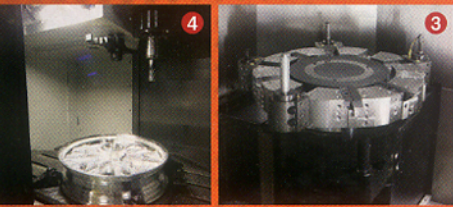
あえて最新鍛造マグホイールがひしめく17インチのマーケットに投入するのは、なぜだろう？ 同社ホイール事業部の深瀬さんに、その問いをぶつけてみると……。

「もちろん、タイプNの6本スポークデザインは、旧車向けに開発したものなのですが、実はゼファーやZRX、XJRといった、今時のビッグネイキッドに履かせても、「意外と似合うんだな」って気付いたんですよ。考えれば、こうしたネイキッド・カテゴリーのバイクは、普遍的なデザインでカタチ作られているワケですから、古くからある6本スポークは、似合って当たり前じゃないですか(笑)。早速、製品化してみましたというわけです」

17インチのタイプNは、最新の鍛造アルミ技法で作りながらも、スポーク間をつなぐリブを立てたり、スポークとリムのつながりも3D加工

で肩を丸く落としたりと、80年代の鍛造ホイールを意識したデザインで、先行する18インチのタイプNより、さらにクラシカルな雰囲気を醸す。それでいて、その軽さはゲイルスピード・ホイールの中でも1、2番を誇る、タイプSとタイプR(ともに17インチ)の間に割ってはいれるほど。ちなみに、ゲイルスピードのアルミ鍛造ホイール、中でもタイプSやRの軽量性はかつての鍛造マグ・ホイールに肉薄するものだ。

「作ってみたら、17インチは18インチよりひとまわり小さいことから、そのデザインがデフォルメされることにも気づきました。リムにワイド感が出るんですね。箱スカなど、4輪の旧車で履くような、「ワイドで深リム」な感じの仕上がり、カッコよくないですか？ そんなにリムの肉厚を攻めないのに、結構、軽量に仕上がっています。このタイプNはストリートのお客さんを意識したホイールですから、軽さも大事だけど、カッコ良さ、それに買いやすい値段ももっと大事ですよ(17インチのタイプNは、前後セットで17万6400円の価格設定)」。アクティブは現在、ブランク材からの削り出し工程をすべて自社内で行える設備が整っていて、製品開発



①タイプNの17インチは現在、ゼファー 1100/750 (各RS含む)、ZRX1100/1200、ZRX1200DAEG、GPZ900R (A7～)、GSX1400、GSF1200 (ABS不可)、GSX-R1100 ('89～'92)、XJR1200/1300、ドゥカティのスポーツトラック採用がある。サイズはフロントが3.50-17、リヤは5.50と6.00 (一部車種は5.50のみ)。価格はF:7万8750円/R:9万7650円
②開発用コンピュータ画面。写真はレース用にワンオフするタイプGPを検討中。ゲイルスピードはMoto2のトーマス・ルティ (インターウェッテン モリワキ モト2) やAMAドラッグバイクのリッキー・ガドソン(モンスター・カワサキ)らにも履かれる
③④マシニングセンター内のホイール切削作業

から市販品製造へのスピード感も特筆。今回のような開発現場のアイデアはもちろん、ユーザーの声を拾った新製品開発、改良には期待大だ。



アクティブ本社そばにある切削工場。ご覧の通り、3Dマシニングセンタを2基設置して、主にホイールの開発と製造に当たっている。ゲイルスピード・ホイールシリーズの、迅速な製品開発と市販化の源

